

ルーブリック使用上のポイント（解説）

ユネスコ活動費補助金事業中学校部会

はじめに（実施者の心構え）

- 「持続可能な社会の担い手」育成を意識し、中学校3年間の学びを大切にしてほしい。生徒の変容を知るために、学習单元やプロジェクトベースの活動の節目（最初と最後）にこのルーブリックに必要な情報を取っておきたい。忙しければ情報を取っておくだけでも、後ほど時間のある時に集計、分析できる。
※収集したデータの集計・分析ツールや活用方法については後述「ルーブリック収集データの活用」を参照。
- 活用する教師自身が、まず自分なりの視点でESDやSDGsへの自分なりの見方・考え方を持っている必要がある。（自分自身が学び続ける姿勢が重要）
- 失敗を恐れず、実践や評価をとにかくやってみる、行動に移すことはESDの核である。

ルーブリック実施にあたり

- 学校や教員を取り巻く環境、ESD実践歴、周囲の理解等により、実施者ごとに背景が異なる。各自の段階に合わせて＜中学校部会版＞＜学習指導要領版＞のよりなじみやすい方を活用してほしい。また、このルーブリックは完成形ではなく一つの提案なので、各自より使いやすいようにアレンジしてもらえるとよい。
- 生徒にルーブリックを提案する際には、「周りの人と比べるのではなく、自分の変化を捉えるためのもの」であることを伝える。例えば、以下のような説明をしてもよい。
—「これは、「先生が」皆さんの成績をつけるためのものではありません。「皆さんが」自分の学びをより良いものにするためのものです。RPGゲームやテスト勉強を思い出してください。もっともっと、と自分で超えるべきハードルを設定して進めていきますよね。それと同じです。学習の様々な場面で、皆さん自身、皆さん同士、そして皆さんと先生との対話の材料として使います。」
- 生徒がルーブリックの全体像を理解するためには、「多面的な視点とは何か」などについて時間をかけて丁寧に説明していくことが望ましい。
- 中学生にとって文言が難しい場合は、単語や文章を変える、または口頭で補足説明しながら進めるとよい。
- 単元で使うことに限定せず、学校生活のビフォーアフターとしてルーブリックを活用することなどもできる。

詳細の解説（ 1 ～ 12 ）

1. できれば、教科単元ごとに実施すると教師にとっての改善点が見える。ただし、無理は禁物。
2. 生徒自身が追加する項目は任意とする。評価要素によっては、もともと書きにくい部分もある。
3. 必ずいずれかの点数を選んでもらうよう、特に評価段階 2 と 3 の違いなどについて必要に応じて補足説明する。
4. <学習指導要領版>では、記載順を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」としている。通知表や校内資料等と表記を合わせる必要がある場合は、<学習指導要領版>を参照していただいてもよい。
5. 実施負担を考慮し、各領域とも固定項目 5 + 可変項目 1（生徒が任意で追記する項目）としているが、利用者の裁量で自由に取捨選択または追加していただくとよい。
6. 「自己肯定感」の項目は、捉え方の違いが大きい部分である。校種、地域性、各自の価値観により内容を変更していただいてもよい。また<学習指導要領版>では、この要素を「学びに向かう力・人間性」に配置している。
7. この要素が教師の指導力を評価されるところと言える。
8. 「持続可能な開発のための目標（SDGs）を知っている」はそのまま 17 の目標を知っているかどうか（より深い知識としては SDGs が定められた経緯なども含む）、「地球規模の具体的な課題があることを理解している」は 169 のターゲットに示されるような各目標におけるより具体的な課題や、SDGs が網羅できていない課題（文化・芸術面など）に対する理解を問うている。
9. 外国語の活用とは、「話す」だけでなく、情報収集の選択肢として外国語の資料を「読む」「使う」ことなども想定している。
10. 「経験知・活動行動歴」は自分の生活と密接にかかわる範囲での過去の経験を問うものであり、ESD の実践歴がある学校にとっては「知識・技能」に入れるのが妥当だが、実践歴の浅い（または全くない）学校にとっては違和感があるかもしれない。<学習指導要領版>では、この要素を「学びに向かう力・人間性」に配置しているので、必要に応じて参照していただきたい。
11. 自分の言葉で語るためには、その人自身の興味関心や経験と結びついている必要がある。「主体的に取り組む態度」欄の「自分の興味関心に目を向けて、学びとつなげようとしている」という観点と関連してくる。
12. 文章表記が大切である。数字に表せないものが見えてくる。

（宮城教育大学 教授 市瀬智紀氏 監修）

ループリック収集データの活用

ループリックを実施して収集したデータを分析すれば、生徒の意識や学習状況を把握するのに役立つ。また、分析データは、自身の学習指導に対する生徒からの貴重なフィードバックとしての意味合いももつ。分析結果をもとに、授業実践や日々の生徒との向き合い方を振り返り、改善

につなげていくことで、教育活動のさらなる充実や発展が図られるため、ぜひ活用していただきたい。

【分析方法と分析ツールの活用例】

1. ルーブリック：相関分析

8つのカテゴリー（評価要素）ごと、または40の項目（観点）ごとに、ルーブリックの値を用いて相関（二つの事柄に何らかの関連があること）を調べる。

以下の例のように、相関の強いカテゴリーや項目から背景や状況を読み取ることができる。

（例）※図に記載されている項目とルーブリックの項目の用語が異なる部分があります。

◆ 「ESDの知識」⇔「経験知・活動行動歴」の相関係数が高い

→経験値がESDの知識や態度のベースになっている

		自己肯定感	ESDの態度	ESDの知識	探究の技能	経験値
自己肯定感	Pearsonの相関係数	1	.504**	.214*	.234*	.383**
	有意確率(両側)		.000	.019	.010	.000
	度数	119	119	119	119	119
ESDの態度	Pearsonの相関係数	.504**	1	.494**	.315**	.572**
	有意確率(両側)	.000		.000	.000	.000
	度数	119	119	119	119	119
ESDの知識	Pearsonの相関係数	.214*	.494**	1	.232*	.658**
	有意確率(両側)	.019	.000		.011	.000
	度数	119	119	119	119	119
探究の技能	Pearsonの相関係数	.234*	.315**	.232*	1	.247**
	有意確率(両側)	.010	.000	.011		.007
	度数	119	119	119	119	119
経験値	Pearsonの相関係数	.383**	.572**	.658**	.247**	1
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.007	
	度数	119	119	119	119	119
思考力	Pearsonの相関係数	.451**	.709**	.514**	.243**	.568**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.008	.000
	度数	119	119	119	119	119
判断力	Pearsonの相関係数	.253**	.426**	.318**	.135	.404**
	有意確率(両側)	.005	.000	.000	.144	.000
	度数	119	119	119	119	119
表現力	Pearsonの相関係数	.460**	.690**	.426**	.307**	.589**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.001	.000
	度数	119	119	119	119	119

◆ 「日常生活でSDGsの達成を意識している」⇔「課題に気づいて行動を変えた」の相関係数が高い

→日常生活でSDGsを意識していることが、課題に気づいて行動を変えることと強く結びついている

		家族友人と話す	課題に気づいて 行動変える	地域の活動に参加
自分にもできる	Pearson の相関係数	.343**	.299**	.118
	有意確率 (両側)	.000	.001	.200
	度数	119	119	119
自分が自分でいい	Pearson の相関係数	.231*	.182*	.134
	有意確率 (両側)	.012	.048	.147
	度数	119	119	119
自分の弱み見せる	Pearson の相関係数	.243**	.212*	-.074
	有意確率 (両側)	.008	.021	.424
	度数	119	119	119
失敗を恐れない	Pearson の相関係数	.261**	.320**	-.025
	有意確率 (両側)	.004	.000	.786
	度数	119	119	119
長所を生かす	Pearson の相関係数	.367**	.444**	.243**
	有意確率 (両側)	.000	.000	.008
	度数	119	119	119
自分の興味関心に目を向ける	Pearson の相関係数	.277**	.490**	.146
	有意確率 (両側)	.002	.000	.114
	度数	119	119	119
他者の発言聞く	Pearson の相関係数	.182*	.223*	.125
	有意確率 (両側)	.047	.015	.174
	度数	119	119	119
他者に共感尊重	Pearson の相関係数	.317**	.265**	.123
	有意確率 (両側)	.000	.004	.181
	度数	119	119	119
批判的な意識と課題解決	Pearson の相関係数	.161	.346**	.116
	有意確率 (両側)	.080	.000	.210
	度数	119	119	119
既習事項や経験と結びつけ	Pearson の相関係数	.393**	.511**	.227*
	有意確率 (両側)	.000	.000	.013
	度数	119	119	119
SDGsを認識	Pearson の相関係数	.324**	.405**	.284**
	有意確率 (両側)	.000	.000	.002
	度数	119	119	119

分析ツール

有料のソフト (IBM 社 SPSS 等) が必要。リソースを持つ研究者等の協力が得られる場合は相談してみるとよい。

2. 記述：共起分析、クラスター分析

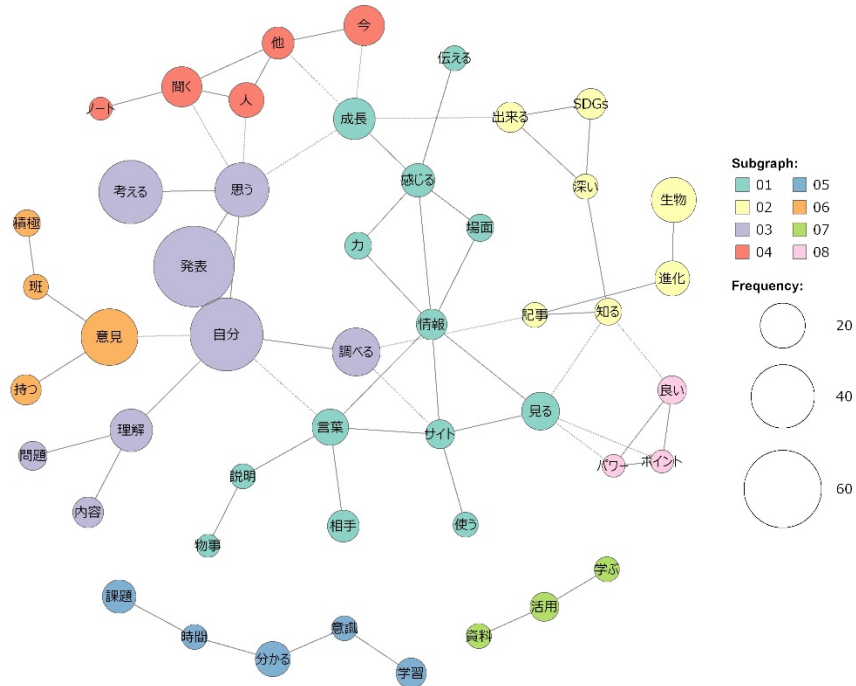
自由記述欄に書かれた文章から、出現する語の関係性を調べる。

- 共起ネットワーク

共起（ある語と他の語と一緒に出現すること）する語を線で結び、共起の程度の強さを表す。

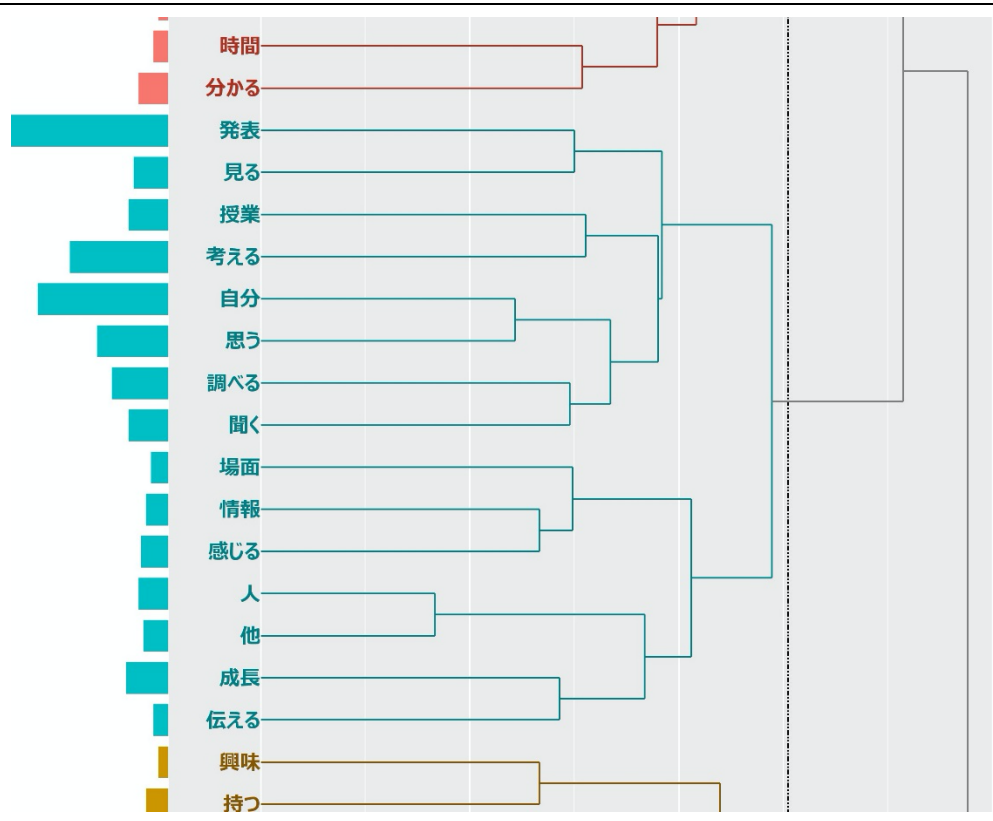
（例）

自分で調べ、考えたことを発表し、成長できたと思う。



- クラスタ分析

表面的なつながりの共起ネットワークに対して、階層に分けて分析するもの。



分析ツール

「KH Coder」 <https://khcoder.net/>

※ソフトを無料でダウンロードし、利用することができる。